

# 松川浦におけるアサリ浮遊幼生と稚貝の発生状況

福島県水産試験場 相馬支場

## 1 部門名

水産業—その他—アサリ

## 2 担当者

岩崎高資・和田敏裕・成田薫・松本育夫

## 3 要旨

本研究では移植や漁業が無い現状における、アサリ浮遊幼生・着底稚貝の動態を明らかにし、操業再開にむけてより効率の良い資源管理を行うための基礎的知見とすることを目的とした。

(1)浮遊幼生調査では、2013年7月17日にピークが見られ(19,040 個体/m<sup>3</sup>)、その後大きなピークは見られなかったものの、8月中旬～10月初旬にかけて1,000 個体/m<sup>3</sup>前後で安定して採集された(図1)。このことから、松川浦におけるアサリの主産卵期は水温が20℃を超える7月～10月と考えられた。また、浮遊幼生密度は湾口部付近の地点で高く、松川浦南部海域で低く、親貝の水平分布と類似していた。このことから、アサリ主漁場であった湾口部付近の親貝個体群が再生産に寄与しているものと考えられた。

(2)2014年6～7月に実施した着底稚貝分布密度調査から、2013年級の密度は過去16年級と比較して最も高く、卓越年級の可能性があるものと考えられた(図2)。

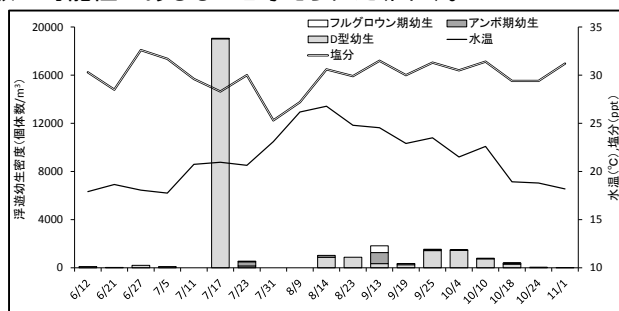


図1 浮遊幼生密度の推移

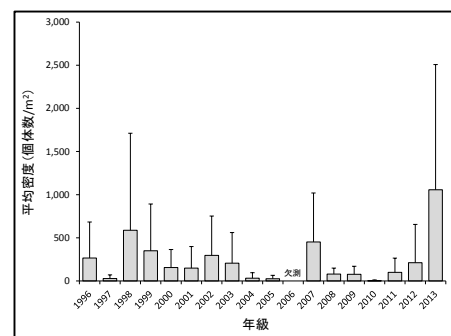


図2 年級別平均密度の推移

(3)震災後の稚貝分布密度の月変化から、各年級ともに発生翌年の3月～7月にかけて大きく減耗することが分かった。2011、2012年級は7月に100 個体/m<sup>2</sup>を下回ったことから、2011、2012年級並の着底水準では漁獲加入は少ないものと考えられた。

(4)発生の良かった2013年級の殻長は発生翌年の3月から9月にかけて約15mm成長し、9月以降に成長が停滞した。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～27年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成8年度～24年度福島県水産試験場事業概要報告書
- (2) 平成25年度水産庁漁場復旧対策支援事業 漁場生産力向上対策事業課題報告書